

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100050		
法人名	特定非営利活動法人 いい日の里		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字棕野1338番地5		
自己評価作成日	平成26年12月25日	評価結果市町受理日	平成27年8月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成27年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のニーズに合った家庭的で心温まる介護、家族間の連携を大切に努めています。併設のデイサービスや小規模多機能サービスの利用者様と交流を持ったり、行事に参加したり他者との交流を持てるようにしています。月1回の誕生日会も職員手作りの雰囲気大切に利用者様に喜んで頂けるよう心掛けています。

利用者様の健康を第一に考え、まずは食からという事で食事には特に心を配っています。毎朝地元の朝市で新鮮な魚や野菜を買い求め、バランスの取れた少量で品数の多い副食を色とりどりで提供させて頂いております。食事は楽しみの一つとして、見て楽しく食欲増進できるような食材を取り入れ、多彩な献立を日々考えています。利用者様が皆さん食事で元気になられており、ご家族様からも高い評価を頂いております。1日三食を真心こめた手作りの品で提供させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元の市場などで新鮮な食材を購入され、品数の多いバランスのとれた食事を提供されています。ホットプレートを使ったおやつづくりや誕生日ケーキ、お節や七草がゆ、節句などの季節料理の楽しみの他、蕎麦屋や喫茶店に出かけられたり、手づくり弁当を持参して花見に行かれるなど、食事を楽しむことができるように支援されています。アクリルたわしやゴミ箱づくりをされたり、漢字ドリルや計算ドリルなどの脳トレの他、リンパマッサージや健康器具でのマッサージ、カラオケやCDの視聴など、数々のレクリエーションのプログラムを工夫されて、利用者が張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。医療機関や家族との連携を普段から心がけておられ、受診時には利用者のカルテを持参され、医師や家族と情報を共有されて、適切な医療が受けられるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者をはじめ職員全員で事業所理念の作成に取り組んだ。職員が理念を共有し実践に繋げていけるよう努力している。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、職員は月2回のミーティング時に唱和し、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周囲の地域住民の方とは挨拶や会話を通じて交流を深められるよう心掛けている。地域の行事がある時は出来るだけ参加するようにしている。週1回のパン屋での買い物や法人のデイサービス利用者との交流も日常的に行われている。	利用者は、年2回のお大師参りや船祭り、敬老会、公民館行事に参加している。小学生を加えたフラダンスや踊りのボランティアの来訪や週1回の移動パン屋による買い物、散歩時に挨拶を交わしたり、近所の人からの差し入れ(花、野菜、果物、魚類)があるなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談での支援を周囲に周知しており理解と利用を求めている。認知症家族の会の訪問等機会を活かし地域貢献できるよう心掛けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価について職員ミーティングで実施の意義を周知し、書類を配布し記入してもらった。その内容を踏まえ管理者、計画作成担当者、リーダーで話し合って自己評価をまとめている。	自己評価をするための書類を職員全員に配布し、記入したものを管理者、計画作成担当者、リーダーが話し合って、作成している。職員は、評価を日々のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、応急手当や初期対応の訓練の実施や地域との協力体制の構築などに取り組んでいる。	・全職員の項目の理解
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域の方・地域包括支援センター職員・家族・職員での参加で2ヶ月に1回推進会議を行っており事業所の現状と報告をしている。気をつけるべき改善点等についても細かな話し合いと意見交換が行われている。	2ヶ月毎に開催し、利用者の状況、活動内容報告、事故・ヒヤリハット報告、避難訓練の報告、外部評価への取組状況等について報告し、話し合っている他、避難訓練への地域住民の参加を呼びかけている。参加者のメンバーが固定している。	・メンバーの拡大 ・議事録の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導や声掛け、意見を聞き入れて業務に生かせる様に心掛けている。入所、退所の報告を行う。問題が生じた時は相談と指導を受けている。	市担当課とは、直接出向いたり、電話で相談し助言を得たり、情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、電話で困難事例の相談や情報交換を行うなど、連携を図っている。町主催の研修会への出席やケアマネ協議会に参加している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徹底した実践で身体拘束は行っていない。利用者様が安心して過ごせる、安全な環境づくりを大切に考えている。玄関の施錠はしておらず、見守りを常時行っている。	身体拘束について、月1回のミーティング時に話し合い、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて、気になる場合には、その都度注意している。ドラッグロックについても、主治医と常に情報を共有し、気をつけている。玄関は施錠していない。外出したい利用者には、職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の立場になって接している。利用者様の気持ちになって接しており複数の職員でケアを行うようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の熟知には達していないので、今後制度についての学びを深め必要な場面で活用できるようにしていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族等、十分に納得をした上で契約している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付時に記録、報告し苦情の受け止めはできている。申し送りや会議、朝礼等で話し合い反省できるようにしている。職員が情報を共有し、ご家族の要望に添えるよう努力している。	苦情相談窓口及び担当者、外部機関を明示して、苦情処理の手続きを定めている。電話、面会時、運営推進会議時等で、家族から意見や要望を聞いている。利用者の様子を手紙を添えて報告し、面会時には、管理者や計画作成担当者が話を聞くなど、家族からの意見が出やすい関係づくりに努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングや朝のミーティングで意見、提案を出し検討、納得いく形で終了するように時間を掛けて行っている。	月1回のミーティングや朝の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。勤務体制の変更や人員配置に関する提案について検討しているなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務にやりがいを持って取り組めるように環境や配慮、整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアを実践していく中で不十分であると判断した課題を挙げ、検討している。助言や指導を大切に受け止め、働きながら学べるように支援していきたい。	外部研修は、職員に情報を提伝え、経験や段階に応じて受講の機会を提供している。受講後は、復命報告を行い、職員全員で共有している。内部研修は研修計画をたて、毎月ミーティングで行っている。新人職員は、日常の業務の中で先輩職員がついて働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や相互訪問等の活動を行えていないため、サービスの質を向上させる為にも今後は取り組んでいきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の思いを親身に聞き、共感するよう心掛けている。信頼関係を築くようにしている。ニーズの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様、ご家族等と連絡を密にしているよう努力している。ご家族様との会話も積極的にしよう心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に沿ったプランは立てておりプランをもとにサービス支援を行っている。今後の声にも耳を傾けて進めていきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を楽しんでもらうための対応、優しさケアを最優先としている。利用者様の出来る可能なことは協力して行うようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族の不安を取り除くように連絡している。ご家族とは一緒に協力して利用者様を支えていきたいと思いますという気持ちでいつも接している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との交流が少なくなっているため、出来るだけ馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援していきたい。施設内での人間関係を円滑にし大切にしていきたいと思う。	兄弟や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の利用者との交流や年賀状や電話の取り次ぎなどの支援をしている。馴染みの美容院の利用や自宅へのドライブ、家族の協力を得ての墓参り、法事や葬儀への出席、盆や正月の一時帰宅、外食、買い物、温泉旅行など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係が円滑にいくようアドバイス、声掛けを心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて利用しやすい状況を作っている。ケアへのサービスで又利用したいと思ってもらえる関係を大切にしたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を持つようにしているので聞き取れるような配慮を行っている。話を必ず聞くようにしておりコミュニケーションを大切にしている。	日々の関わりの中で、利用者の会話や表情などから思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、ミーティングで話し合い、本人本位に検討している。介護記録やリーダーノート、申し送りノートに記録しているが、本人の意向の把握につながる記録には至ってない。	・思いや意向の把握につながる記録方法の検討
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント状況は利用者様本人やご家族からの聴取等で把握に努めている。日常の会話を通じて本人理解に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動や行動の観察を通じて現状の把握に努めている。希望を取り入れた過ごし方はできていると思う。工夫したやり方、過ごし方は促すようにしている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、看護師等のチームでモニタリングを行い作成するようにしている。今後の改善に繋がるのでモニタリングや会議を増やしていきたいと思う。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、ケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者の思いや家族の要望、主治医、看護師、職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施して見直しを行い、状況の変化に応じて、その都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報は引き継ぎなどで職員間で共有している。個別記録に気付いたことやその日のご様子等を詳しく記録するようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望に沿って取り組んでいる。日々の生活が単調なものにならず、楽しみが持てるよう変化のあるケアも心がけたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域全体の安全性の高さにより安心した生活は送れていると思う		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のかかりつけの病院に通院するようにしている。医師との連携、連絡を継続していきたい。今後も医師からの説明とケアのアドバイスを大切に守っていきたい。	利用者や家族が希望する医療機関の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。専門医への受診時にはカルテを持参し、家族の協力を得て受診の支援をし、受診結果は家族と共有しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	引き継ぎ等で情報を伝えている。報告、情報等的確に伝えられるよう必ず通院時にメモして職員に通知している。スタッフは看護職員への報告、連絡、相談を実践している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には経過や症状の他にこれまでの生活ぶりなど詳しく伝えるようにしている。また、退院の際には医師や看護師、地域連携室の職員の方との情報交換を密に行っており、対応の仕方など相談している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実践例がまだないので、希望等あればご本人やご家族の希望を取り入れ、事業所として出来ることを検討し取り組んでいきたい。	契約時に「重度化または終末期における対応指針」を基に、事業所でできる対応について家族に説明している。重度化した場合には、早い段階から、家族や主治医、関係者と話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。重度化に対応できるよう研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月1ミーティングの際に急変時の対応について研修を行っている。全職員が応急手当の方法やスキルを向上させる為今後も研修を重ねていきたい。歩行の見守りや服薬確認等日々の業務にも職員間で声を掛け合って事故防止に努めている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、発生の都度、その場にいた職員で対応策を話し合い、翌朝の申し送り時に報告し、全職員で共有している。月1回のミーティングで、再度話し合い、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、毎月1回、看護師を講師として、急変時における対応研修を実施している。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方に声掛けをし、消防訓練を実施した。今後も事故のない体制づくり災害時の避難訓練の実施を行っていきたい。	年1回、消防署の協力を得て、総合訓練を実施している他、年1回、夜間想定を含めた避難、消火、通報訓練を行っている。避難訓練には近隣住民の参加を得ている他、運営推進会議で防災について話し合い、緊急連絡網への近隣住民の参加につなげている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合った対応に心掛けている。個性を考えた対応や、やさしく丁寧な言葉かけに努めている。	内部研修で学び、職員は理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。朝のミーティングで、利用者に対するプライバシーについて話し合っており、入浴時や排泄時の言葉かけに対して不適切な対応等がないかを確認している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中のADLへの働きかけが常に必要なのでその中での希望を見出していく努力を継続していきたいと思う。どのようにしたいのかご本人の意見をお聞きし対応するよう心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に出来るだけ沿うようにしている。ゆっくりと時間をかけて対応していく必要があるので気をつけていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の流れや爪切りなど職員全員で支援している。フェイスクアチェックを実施している。洋服の組み合わせなど一緒に考えながら支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝ってもらえる方、意欲的に希望される方に手伝ってもらっている。職員は食事の輪に入り一緒に食事を楽しむようにしている。	三食とも法人の厨房からの配食を利用し、地産地消の新鮮な食材を使って品数の多いバランスのとれた食事を提供している。利用者はテーブル拭きなど、できることをしている。ホットプレートを使ったおやつづくりや誕生日のケーキ、お節や七草がゆ、節句などの季節の行事食、蕎麦屋や喫茶店に出かけたり、弁当をつくって花見に出かけるなど、食事を楽しむことが出来るように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面でのバランスは充分とれており摂取量も良好である。病状に応じて量や形状も工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄、声掛けや介助で施行、状況に応じてうがいも実施して頂いている。表の記入も行っており忘れる事が無いようにしている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助の方は特に注意している。個別支援として対応できている。失禁のある方への対応は特に気を使っている。自尊心を大切にし、優しい促しと誘導に努めている。	排泄チェック表を活用し、声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。利用者の3分の1は、自立しており、職員が見守りをしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く取り入れ、果物も毎日摂取しておられる。水分補給にも留意し便秘にならないよう心掛けている。体操の時間を必ず取り入れて便秘対策で動いて頂けるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けや一部介助での入浴が実施できている。温度調整や衣類の選別に気をつけている。拒否あれば日にちを変えるか時間をずらしている。気持ちが良かったと思って頂ける入浴支援に努めている。	入浴は、土曜、日曜以外の毎日、9時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態によりシャワー浴や清拭、足浴などへの対応をしている他、ゆず湯、ミカン湯、入浴剤を使った入浴を楽しむ工夫もしている。入浴したくない利用者には、職員の交替や声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にて様子観察、昼寝の実施など見守りで対応している。個人の希望を大切にしながら本人のペースで休息がとれるよう配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認、認知症の利用者様には手に薬をのせて確実に服用できたかまでの確認をしている。安心した状況が保たれている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に活躍できる場面が見出せるよう、出来ることを手伝って頂いたりしている。パン屋を楽しみにしている方への声掛けや、好きなCDをかけたり気分転換が図られるよう心掛けている。	折り紙、カルタ、百人一首、トランプ、カードゲーム、テレビ視聴、新聞や雑誌の購読、作品づくり(アクリルたわし、ゴミ箱)、脳トレ(漢字、計算)、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花壇の草取り、水やり、リンパマッサージ、健康器具でマッサージ、筋力トレーニング、カラオケやCDの視聴、歌を歌うなど、活躍できる場面づくりをして楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1度買い物に出かけている。併設のデイサービス利用の方との交流はできているが外出も季節と機会を考えながら実施していきたい。	近隣への散歩、買い物ツアー、海や山へのドライブ、お大師祭りや船祭りへの参加、桜やつつじの花見、家族の協力を得ての墓参りなど戸外へ出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来るだけ本人希望を聞いているが事業内事務での管理が望ましいので紛失のないように気をつけている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人宛の手紙は手渡し、電話は直接話して頂いている。手紙の代筆も行っている。ご家族には毎月お便りを送付しており近況報告をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整頓された環境づくりや快適に過ごせるよう温度管理にも留意している。利用者様が作られた作品や興味ある掲示物を設置している。思い思いに過ごせる居心地の良い空間作りに心掛けている。	窓から山の木々や人家が見える共用空間には明るい陽ざしが差し込み、配置換えできるテーブルは、気の合ったもの同士の席や利用者の希望に添う席など一人ひとりに配慮した居場所づくりをしている。壁には、利用者の作品を飾り、季節の飾りつけをして季節感を感じることができる。温度、湿度、換気に配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室、ユニット型であり問題はないと思うが集団生活の大切さも伝えていきたい。ホールでの過ごし方の配慮を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の清掃、環境づくりに気を配り配慮している。好きなものを持ち込まれたり、自由性を大切にしている。家具や小物の配置等、ご本人やご家族の希望を尊重し、相談しながら対応している。	ソファやテレビ、籐椅子、鏡、化粧品、日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や作品を飾って、居心地よく過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなくフローリングで問題はないと思う。混乱や怪我が無いよう表示等もしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームすこやか

作成日：平成 27 年 8 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24 (11)	思いや意向の把握につながる記録方法の検討	介護職員他職員全員が利用者様の居宅計画、介護計画に添った支援ができ記録に記載できる	記録用紙をミーティングで討議し変更して実施している。申し送り時記録を各個人ごとに見ながら申し送る。思いや意向のカルテ内容は読みながら申し送る。評価していている。	1年を通して
2	35 (15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備えを全職員が実践力を身につけるまでには至っていない	全職員が事故発生時の対応を適確に実践できる	ヒヤリハットの用紙変更、即時に内容のカンファレンスを行い本人や管理者他の方々と協議し解決等の検討を行い記載していく。朝、ミーティングでヒヤリハットの報告等を行う。以上の事を確実にし統計を取り職場の現状を分析し話し合う。車の係を決めていたが仕事内容の実践を確認して、車の事故がないようにする。出発前の車の点検の充実他	1年を通して
3	5 (4)	自己評価や外部評価の意義を職員全員が十分理解できていない項目がある	自己評価や外部評価の意義を理解し全項目が職員全員で理解して実践できる	自己評価及び外部評価結果を再度職員に配布した上で、ミーティングでグループホーム毎に検討した。職員全員で項目の内容の理解や現状を話し合った。1回ではなくて状況により数回行う予定。	1年を通して
4	4 (4)	運営推進会議を活かして取り組みの工夫が必要である	運営推進会議の中での内容が職場の中で利用者の安全と満足度に繋がれるようにする	メンバーの拡大が必要であり個人情報の保護を考えて、民生委員様や自治会長様や消防職員様等地域を取り巻く多くの方々のご参加につなげていく努力を更に行う。ヒヤリハット報告を更に充実させ職員全員で共有する。統計をとる。議事録の記載内容はSOAPの形式で具体的に記載する。参加者の発言は具体的に記載し、地域住民の方々に更に働きかけて定期的に避難訓練を4ヶ月に1回行う。	1年を通して
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。